

ロールプレイ「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」 解説（適切な初期対応）

平成 27 年度アレルギー・アナフィラキシー対応研修会資料

【解説】

A) 発見：食物アレルギー症状であることに①気づく、②観察、③人を呼ぶ

注 1-1. 「ちょっと気持ち悪い」

- ・普通、「胃腸炎」、思春期の児童生徒なら「起立性調節障害」、夏場なら「熱中症」等を考える。
- ・全教職員が、A君が食物アレルギー、アナフィラキシーがあり、エピペンを処方されていることを常に念頭に置いておく必要がある。

注 1-2. 「お腹痛い、咳」これで気が付くべき。

- ・腹痛：胃腸炎、消化不良、排便前等の消化器の症状。
咳：かぜ等の感染症や気管支喘息など呼吸器の症状。
ウイルス感染症で、消化器の症状、呼吸器の症状、熱などが経過の中で重なっておこってくることはあるが、急に同時にということは少ない。
- ・食物アレルギーを持っている、食後に起こってきていることから、食物アレルギーを考える必要がある。
- ・食物アレルギー症状の既往がない学童でも、食後の運動時にアナフィラキシー症状を初めて訴え、食物依存性運動誘発アナフィラキシーを発症することあり、全職員が知っておく必要がある。

正しい対応

B：アレルギー、アナフィラキシーに気がつき、観察

「息苦しさはないか？お腹の痛みは我慢できないくらい痛むか？横になれるか？」

A：「息苦しさはないです、気持ち悪いけど、お腹の痛みは少しです。」

（今のところは緊急性の高いアレルギー症状ではない）

B：「確かエピペンを持っていたな、靴の中か？」

A：「はい」

注 2-1、2-2. 「少し休んでいたら？」「一人で保健室に」

- ・「児童生徒から離れず、目を離さない」が基本。目の届かないところで独りにしない。気がつかないうちに悪化して、取り返しのつかいことになりかねない。

注 4. B先生自身が保健室へ

- ・人を呼ぶことは重要
- ・この時大切なのは、まず児童生徒から離れず、目を離さない

- ・生徒に、近くの先生や養護教諭を呼びにいかせる

正しい対応

B : 「D君、A君がアレルギー症状あるので、養護E先生を呼んできてくれるか、行く途中でC先生にきてくれるように声かけて」（発見者は離れずに、人を呼ぶ）

注3. 咳き込み

- ・咳：「犬が吠えるようなせき、持続する強い咳せき込み、のどや胸が締め付けられる、声がかすれる、息がしにくい、ゼーゼーする呼吸」は緊急性が高いアレルギー症状

正しい対応

B : (緊急性が高いアレルギー症状がでてきた)

「A君、息がしんどいか？」

A : 「しんどいです、吐きそうな感じもあります」

B : (A君の顔と体を横に向ける)

C : 「B先生、どうしました？」

B : 「A君が緊急性の高いアレルギー症状あります。今、養護E先生を呼んでてもらっているんですが。」
「C先生、「緊急時対応個別カード」「緊急時対応経過記録表」、AEDを職員室から、エピペンを教室（の後ろのドアを入れてすぐの一番端、上段にあるA君の鞆の外側のポケット）からとってきてください」（C先生に準備を依頼）

F : 「A君、アレルギー症状がでたのですか？」

B : 「F先生、A君が緊急性の高いアレルギー症状あります。救急車を呼んでください、あと校長先生と他の先生も呼んでください。保護者にも連絡してください」

E : 「A君、どうですか」（後は養護教諭対応1と同様）